

(12) 中 村 南 小 学 校

学 校 長 益 永 美 佳
校内研究代表者 上 田 浩 稔

1. 研究主題

見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり
～「問い」を作るための学習過程・指導方法の工夫～

2. 研究主題設定の理由

これまで本校では、学習指導要領の趣旨を踏まえて、算数科を中心に『見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり～「問い」を作るための学習過程・指導方法の工夫～』を目指して取組を進めてきた。その中で、目指す授業に向け、見方・考え方に着目できるような学習対象とどのように出合わせるのか。生きて働く知識・技能にするためには、どのようにすればいいのか。そして、子供が自ら問いを見いだす力を身に付けていくためには、どのようにすればいいのかなど、課題が見えてきた。そこで今年度は、昨年度までの課題を踏まえ、学校全体で児童が主体的に授業に取り組めるよう、問いを解決した後に、新たな問いが生まれてくるといった、問いが連続する授業が展開できるよう研究を深めていく。また、主体的な学習となるよう、必然性のある「問うべき問い」を追及し、より具体的に研究を深めていく。さらには、子どもの数学的な見方・考え方を板書に表現し価値づけしたり、どの場面で解決過程を振り返り数学的な見方・考え方を自覚化させたりするかなどを意識しながら学びを深めていく授業展開や、単元デザインの在り方について追究していく。

見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくりにあたっては、次の3つのポイントとする。

1 授業のゴールを変える

資質・能力ベースの授業づくりにおいて、まず大切にしたいことは学習のゴールを見直すことである。内容ベースの授業では、何を知っているか、または何ができるかが学習のゴールとしてのまとめに位置付くことが多かったが、資質・能力ベースの授業においては「数学的な見方・考え方」をどのように働かせて問題解決に取り組んだのか、それがどのように成長したのか、さらに学びの結果として新たに何ができるようになったのかなど、授業を終えて身に付いた力～賢くなったこと～を明らかにしていく。

2 数学的活動を組織する

資質・能力を育成していくためには、従来の学習過程を見直して資質・能力ベースの授業づくりの在り方を確認することが必要である。内容の習得を最優先の課題とした学習過程ではなく、事象を算数の価値（見方）から捉えて問題を見だし、問題を算数・数学らしい認知・表現方法（考え方）によって自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程といった問題解決の過程を丁寧に進めていく。

3 コンテキスト（文脈）を子どもと教師とで描く

問題解決の過程を用意しただけでは、資質・能力を育成する学びはスタートしない。問題解決の過程において、子どもが主体的・対話的で深い学びを営むためには、学習過程を主体的に学び進むためのコンテキスト（文脈）が極めて大きな意味をもっており、資質・能力の育成を目指すためのコンテキストの開発が必要である。

そのコンテキストの開発に当たっては次の2点からのアプローチを重視する。

① オーセンティック（真正）な学習場面の設定

日常事象の課題解決に算数を活かす展開および算数の内容を統一的・発展的に創る展開のいずれにおいても、学習がオーセンティックであれば観察・操作等から算数を見だし、これに関わって親しみ、また観察・操作等の追体験や確認を通して、子ども自らが算数の価値に出会い、それを納得することができるようにする。

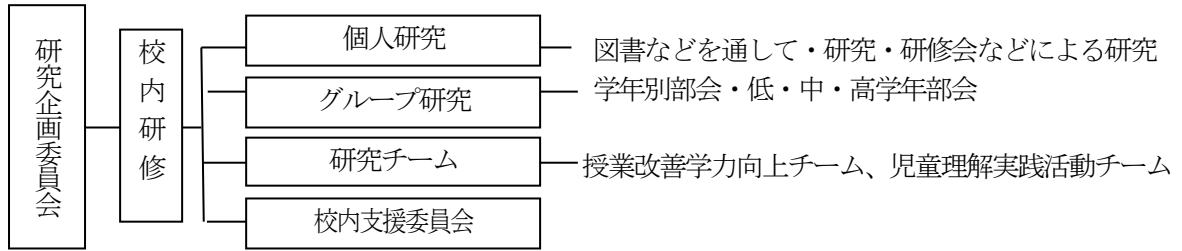
② 「数学的な見方・考え方」の明示的指導

「数学的な見方・考え方」に気付けるような明示的指導を重視すること。算数の知識や技能を統合・包括するような鍵概念や算数ならではの認識・認知や表現の方法などに、常に子どもの関心が向くようにする。

以上のポイントを意識し、見方・考え方を働かせた資質能力を育成する授業づくりを組織的にを行い、学校教育目標「豊かで かくしく たくましく」の「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育成していく。

3. 研究の進め方と方法

①研究組織



- *企画委員会・・・第1月曜日の16：00～校長、教頭、事務長、教務、研究、
- *研究企画委員会・・・第2月曜日の16：00～校長、教頭、教務、研究、研究チームリーダー、道徳教育推進教師
- *校内支援委員会・・・第4木曜日の16：00～教頭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、養護教諭、児童理解TR（場合によっては、該当児童の学級担任にも参加してもらう。）
特別な支援を必要とする児童の実態把握と支援体制

②研究チーム

	授業改善・学力向上チーム	児童理解・実践活動チーム
研究目標	- 算数科の授業づくりを通して育成すべき資質・能力の向上を図る。 - 基礎学力の定着と学力の向上を目指す取り組みを学校ぐるみで推進する。 - 児童の学力状況を把握し、全校での学力向上策を進める。	- 人権学習を基盤としながらお互いの良さを認め合い、支え合える仲間づくりを目指す。 - 道徳的実践の充実を目指して、指導内容の重点化と総合的な推進を図る。 - 家庭・地域社会と連携して、人権・道徳教育の推進を図る。
取組内容	(1) 算数科授業づくりの研究 - 全体計画及び年間指導計画の作成 - 学習指導案についての研修 - 授業づくりの研究・実践 - 授業評価表の活用 (2) 学力向上のための取り組み - 個人カルテの作成 - 全国学力学習状況調査・標準学力調査 - 市販テストの分析と活用 - 授業の中での関わり方 - ノート指導の充実 (3) 基礎学力定着のための取り組み - みなみタイム - 基礎学力タイム - パワーアップ - 計算力・漢字力テスト (4) 家庭学習の習慣化と質の向上 - 家庭学習アンケートの実施と分析 - 家庭学習の手引きについて - 自主学習の達人	(1) 仲間づくり活動 - 縦割り班活動の充実 - 学級・学校きらし - QUアンケート - グループエンカウンター - 児童理解を深める活動 - 安心安全な学校学級環境づくり (2) 道徳的実践の指導 - あいさつ - 整理整頓（靴箱・ロッカー・トイレ） - 学校美化（掃除） - 登下校の歩き方、廊下の歩き方 - 名前の呼び方 (3) 家庭・地域社会とともに進める人権・道徳教育の推進 - 生活づくり（いきいきカード） - 家庭・地域社会へ人権・道徳教育の発信（学校だよりでの担当コーナー等） - 道徳教育ハンドブック「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用
	自ら考え、判断し、表現できる児童の育成	
メンバー	◎上田・松岡・嶋・松村・近森・有田 岡崎・村上	◎松本・岡田・永尾・竹又・尾崎・松下 竹内・田野

4. 今年度の主な取り組み

- (1) 算数科を中心とした学力向上に関わる内容
 - ① 算数科授業づくりの研究
 - ② 学校ぐるみの基礎学力の定着と学力の向上等の充実
 - ③ 個別の支援を必要とする児童への対応
- (2) 児童理解に関わる内容
 - ① 仲間づくり活動の充実
 - ② 道徳的実践の指導
 - ③ 家庭・地域社会とともに進める道徳教育の推進
- (3) 算数科授業研究

日	学年組	授業者	資料名
6/8	なかよし	竹内・松下・岡崎	観察授業（児童の様子を共有）【算数・自立活動】
6/16	3年2組	松村	大きい数の筆算を考えよう
6/28	3年1組	竹又	大きい数の筆算を考えよう（授業づくり講座）
10/12	4年	嶋	がい数の使い方と表し方
10/19	1年1組	岡田	3つのかずのけいさん
10/26	1年2組	松岡	3つのかずのけいさん
1/13	5年1組	上田	割合
1/20	5年2組	近森	割合

5. 今年度の成果と課題(来年度に向けて)

- どの学年も教材研究と授業研究を1セットにして行うことで、系統性を意識した目指す授業づくりについての共通理解を図ることができた。また、授業づくり講座では、児童の思考を深めるために ICT を効果的に活用する研究にも取り組み、文部科学省の笠井教科調査官や西部教育事務所の指導主事から、授業づくりのポイントや目指すべき方向性を示唆してもらうことで、研究の充実を図ることができた。
- 授業づくり講座の参加者からの肯定的評価が91%となり、年度当初の目標値80%を大きく上回ったことから、資質・能力ベースの授業づくりについての提案授業を通して、指定校としての役割を果たすことができた。
- 全国学力学習状況調査や高知県学力定着状況調査の結果を全教職員で分析を行い、学力状況を共有したことで、自分事として捉え、それぞれの学年で取り組むべきことを考えることができた。また、把握した課題の改善に向けて、各種シート（課題改善シートやダントツシートなど）を活用した加力指導などを行い、理解を深めていった。
- 児童から問いを引き出し、課題解決につなげていくことを日常的に実践していくことに課題がある。主体的に学ぶ児童を増やし、思考力の向上へとつなげていくために、思考を表現させる際には、図や数直線を用いて自分の考えを表現させたり、図や数直線で表現された友達の思考を読み取ったりする場面を増やしていき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり、目的に応じて柔軟に表現したりする力を伸ばしていく。
- 各種学力調査結果から、基礎基本の定着に課題があることが明らかとなったため、朝学習の時間や基礎学力タイム等で、学級の実態に合わせてデジタルドリルや復習プリントに組み込み、基礎・基本の徹底を図ってきたが、目標値を下回った。児童一人ひとりの個別最適な学びができる環境を作っていく必要がある。特に、学力の未定着が著しい児童については、今後も放課後学習の時間に個々の躓きに合った内容に組み込み、定着を図っていく。